

2015年9月18日 中学校三年生（39名）

国語「好きな人にとって都合の良い人になることができれば幸せなのか？」

絵本「大きな木」を読んで問いを立てて、議論しました。

中川：今日の問いは、先ほど読み上げてもらいましたが、好きな人にとって都合の良い人になることができれば幸せなのかという恐ろしい問いですが、じゃあ答えれる人からいきましようか。幸せなのか、なので当然答えは？まあ、基本は二択ですよね。イエスかノーかっていうことだと思うんですが。A君が、手が上がってるので、A君からスタートしようかと思っています。いきます。ほい。

A：幸せの定義って人によって違うから、人によって違うんじゃないですか。

周りから「もう一回」という声上がる。

中川：もう一回。大きい声で。

A：人によって違うんじゃないですか。（「そうですねー」という声）ですよねー。

中川：えー、幸せが人それぞれ違うんで、違うんじゃないですか。じゃあ、何がどう違うんでしょうか。（間を置いて）という話になります。今の通り言ってもらってもいいですし、これ（板書の問いを指さして）に答えてもらう方が早いかもしれません。どうでしょう。あなたは どう思いますかという話です。いける人どうぞ。

B：やっぱ、今A君が言ったみたいに、人によって何でもかんでも変わってくると思って、なんでかつつたら、その好きな人にとっての都合の良い自分をやって、それで相手と関わればそれだけで幸せって思う人もいるだろうし、素の自分で接した方が幸せって思う人もいるだろうし、幸せを感じるポイントも人によって違うと思うから、幸せっていうのは個人的な思考によるんじゃないでしょうか。

中川：誰でもいいです。

B：さっきから笑ってるC君にプレゼントだ。

Cは話さずにDに手渡しした。

D：これは質問なんですけど、これはどっちの幸せ、都合の良い人になろうとしている人の幸せなのか、自分の好きな人にとっての幸せなのかどっちですか。

C：（ボールを持たずに）言った。都合の良い人になろうとする人。

D：じゃあ、もうちょっと考えるわ。

中川：今の答えれる人いますか。質問は聞こえましたか。じゃあもう一回言ってあげて下さい。

D：（ボールを持たずに）前提でもう解決しました。

中川：結局どっちやったん？

D：都合の良い人でしょ。都合の良い人のほうの幸せ。

A：（ボールが来たので）解決したなら、何を言えばいいの。（Bが「自分の意見」）都合の良いことをして、それで相手が喜んでくれるなら、自分にとって幸せだからそれでいいでしょうし、都合のいいことをするのにめっちゃめっちゃコストがかかったりして、それがつらいと思って、幸せになれないこともあるでしょうし、人によるとしか言えないでしょう。人によるよらないじゃなくて、共通してるのは、好きな人に喜んでもらえたら、それは幸せなんですけど都合のいいことが何かっていうこと……

中川：えらく困っているようなかんじもするので、もう一回言いますよ。人によって違うということがあるとするなら、誰がどう思うかっていうことは今話せますよね。あなたはどう思いますかっていうので議論を進めるとします。もう一つは、A君が言ってくれましたけど、都合がいいってというのはどういうことかっていうことですね。それが幸せということにどう関わるかっていうのは話せるかもしれませんが、もう一つ、D君のやつは、答えが出たというか、前提はそうだったという話になってますが、相手にとってどうかということ、相手にとって幸せか、自分にとって幸せかということも違いますよね。ちょっとややこしいことを言いましたが、そもそもテキストがあるので、木の場合やったらどうやったかとか、そういう話ができるんじゃないかと思いますが。

A：今、先生の話聞いていて思ったんですけど、都合の良いの度合いによって違うのかなと。例えばなんか、いろいろ考えていて、好きな人に都合の良い人って聞いて最初に、キャバ嬢とかに貢ぐおっさんを思い浮かべてしまったんですけど、すごい指輪を買ってあげたりとかするのが、そういうおっさんじゃないですか。でも、違う都合の良いの在り方もあると思うんで、例えば、好きな人が物を落としたとするじゃないですか、それをひろってあげるのも都合がいいってことじゃないですか。（C：ただの下僕じゃないか 中川：しゃべるときは手を上げて）都合の良さを行動で示すか、金で示すか。それでなんか、金で解決できることじゃないとか、都合良くしてもらった側が気に入らない内容もあると思うんで、都合の良い人になったからって、相手が喜んでくれるわけじゃないし。そう思います¹。

B：ちょっとA君のはどうかなって今思ったんですけど、相手にとって都合の良い人っていうのは

¹ Aはずっと自信なさそうに話している。Aの発言は自分で例を上げ、テキストから離れているからか。そういえばAはこの前の授業を欠席していた。彼の感想を見ても、テキストの話になってからは分からなくなったようだ。

つまり、相手の理想のかたち、相手が求めていることをやるってということになると思うから相手の理想の、相手にとって都合の良い人になって、たぶん相手が嫌な気持ちになるっていうことはないんじゃないかなって思います²。

E：さっきの都合の良い人、都合の良くないってというのは、何かそこに上下関係があるような気がして、自分はその人のために生きているわけではないし、さっきC君も下僕と言ってたけど、ほんまにそういうかんじになるような気がして、その人の喜ぶようなことをしようと思って、何もその人に尽くす義務はないと思うし、端から第三者視点から見たら、残念な人になると思うし、さっきA君が出したアレはまあ極端やけど、別にそのキャバ嬢の人はその人をどうも思っていないのに、その人に大金をつぎ込むってというのは（聞き取れない）って他人から見れば思うと思うし、その人がどう思っているかは置いて、そうすることによって幸福感を感じられるのであれば、それは幸せにもなると思う³。議論の視点としては、どこまで尽くしてもいいのかってかんじのほうに、を言ったほうが、幸せは人によって違うで終わってしまう⁴ような気がするんで、そんな気がするんですけど。

A：最初にキャバ嬢とおっさんの例を思いついてしまったせいで、相手にとって都合の良い人ってというのが、相手に利益をもたらす人って定義づけられちゃったような……

C：（ボールを持たずに）みんなそうなんじゃない⁵。

A：そういうのは、これ（ボールを示して）とってからにしてほしいね。さっきB君が言ってくれたように、相手にとって理想の人ってというのが確かに聞いてみてそうかもしれないって思ったんですけど、それを聞く前から自分の中で絶対そんな人いねえなって、いつの間にかできあがったっていうか考えるしかなかったっていうか、それも考えてみたら、相手にとって都合の良い人って、そこらへんが良く分かんなくなってきた、都合の良いの度合いとか、社会的とか、金銭的に利益をもたらす人とか、それか自分の求めていることをしてくれてる人とか、だいぶ違ってくると思うんで⁶。

E：都合の良い人ってというのがよく分からないので、問いを出してくれた小集団の、その意見を出してくれた人に、どんな考えかを聞いてみたいんですけど。自分の、その問いを作ったときの定義とか、そんなんありますか⁷。

F：自分は、この物語を読んで考えた問いなんで、都合の良い人になるってというのは木が自分の身を滅ぼしてでも少年のためになろうとしていたので自分の大切な物を失う、都合の良い人ってというのは自分の大切な物を失ってもその人に尽くすことができるっていうかんじに考えて

² 問いに含まれる「都合の良い」が相手の理想なら相手は嫌になることなどないという反論。

³ Eはテキストを意識しながら発言しているように見える。

⁴ 人によって違う、は議論を終わらせる。別のクラスの感想にも書かれていた。

⁵ Cは幼稚に振る舞い、ルールに従わない。AはこのあとCに怒るが、他の人たちはその意味ではCを相手にしていない。そのため、Cのジャーナルにコメントするという指導にとどめた。

⁶ Aが答えに迷い続けているのは、問いが何を問うているのかが分からなくなっているから。それは全体の様子からも見て取れる。

⁷ Aと周りの雰囲気を受けての質問。問いを出した人に聞いて、何を答えるのかを考える。ここから空気が変わる。フィンプレー。

問いを考えました。

中川：昨日Fさんが言っていたことを若干補足すると、都合がいいってというのは木はお金欲しいって言われてりんごをあげて、家が欲しいって言われて枝をあげて、遠くに行きたいって言われて幹をあげたんですね。Fが昨日言ったのは、幹の時は幸せにはなれませんよねっていうのが気になってるっていう話でしたね。それは一つヒントになるかなと思います。それがなぜそうなのかということを考えるのも一つの手だと思いますが、どうでしょうか⁸。

G：りんごの木は幹をとられるまでは、少年が自分のことを大切に思ってくれていると思っていたけど、自分のすべてを持って行ったからちょっと考えが変わってきて、なんかちょっとおかしいなってかんじになってきたんだと思います。

H：それはちょっと違うと思ってそのときに木が幸せじゃなかったのは少年がそれで遠くにいっちゃうからだと思って、それまで木が幸せだったのは少年は木に自分の利益になるものを求めていて、木はその見返りとして少年に会えるっていう幸せっていうか少年のことが好きやから少年が来てくれるから、自分のやったことの見返りがもらえてるってかんじやったと思ってただけどこの幹のときは少年が遠くに行っちゃって会えないみたいなかんじやから、なんか幸せになれなかったのかな⁹。

C：それに反論なんですけど。ただたんに木と少年は利益の関係で成り立っているとは思えなくて、その幹のときに幸せじゃないっていうのがあったと思うんですけど、そのときは少年っていう人間の注意というか気持ちが木に向いていなかったと思って、切り株になって何もないうちでも少年の注意が木に向いて、だから今まで利益関係みたいなのが成り立ってたかもしれないけど幹っていうか切り株までのときは、少年の気持ちが木に向いてなかったのに切り株に向いて、そこで幸せか幸せじゃないかが変わったんだと思います。

B：ちょっと、いまC君が言ったことがあんま意味分かんなかったですけど¹⁰。

中川：もう一回、じゃあもう一回言ってもらいましょうか。

B：もう一回、整理して話して頂いても。

A：（ボールを持たずに）三行以内な。

C：えっとですね……（沈黙）……めんどくさいことすんな。

中川：たぶんC君が言ったのは木が……幹をとっていったときは木に意識が向いていなかったって言うてくれたんですね。木に気持ちが向いていない。っていうのはつまり、難しいですけど

⁸ ようやく中川も、なぜ話しくそうなのかに気づく。次のクラスの授業では先に問いを意図を話してもらった。テキストも簡単に要約した。

⁹ テキストの解釈をこれまでに議論で登場した「利益」という言葉を使って述べている。見事だ。

¹⁰ Bが分からなかったのは、Cのこれまでの振る舞いと無関係ではないだろう。

ど、少年は船が欲しいから行ったわけですね。だから、木の幹が、木がどうなんかっていうのは考えてないんですよ。そういう意味ではとれますよね。またHの話は、いま（Cは）反論ですって言うてくれたんですけど、うまいこと反論になってるかどうかは分からないんですけどHもけっこう面白くて、木自身が求めていることは少年がここに来てくれることなんだけど、遠くに行っちゃうから幸せでなくなっちゃったって言うてくれたんですね。若干論点が違うような気がしますが、そんなかんじかなと思います。元の話は、幹っていうのがどういう存在かっていう話で、Gは木にとって幹っていうのが木自身である、木のすべてである。木がすべてを提供してしまったので幸せでなくなっちゃったんじゃないかと言うてくれたんですね。これはそれぞれわりと重要な要素じゃないかなと思いますが。どう思いますか。今ので分かりましたか？

B：あー、理解しました。

中川：じゃあ、まだしゃべってない人いきましようか。

I：G君に反論で、Hさんも言ったように木が自分から少年がどっかへ行く手助けをしてしまったから、それでさらに悲しくなったんだと思います。

J：I君の言うてくれているように、木は少年が木のところに来て遊んでくれることが幸せだったのでずっと遠くに行くって言われたら幸せじゃなくなるし、木にとっては都合の良いことだだと思います。

（そのまま横にパス）

K：最初は少年は……

中川：ごめん、もうちょっと大きい声で。

K：最初少年は……が幸せって言うてるけど。

中川：何が幸せって？

K：少年は木と遊ぶことが最初は幸せだったけど、木がりんごをあげたり、枝をあげたり幹をあげたりして、どんどんレベルアップして行って（笑いが起こる）エスカレートして行って、木が少年にすべてを与えてしまっ、木は幸せになれてないと思います。

（隣へボールを渡す。隣の方は少し考えるが、手が上がったのでBへ）

B：えっと、いま思ったんですけど、木が幹を切り倒されて幸せになれなかったのってこの問いに直結するんじゃないかと思って、なんでかつつたら、木は今まで少年の都合の良いような行動をとって、自分が会いに来てくれるっていうようなリスクを作って、リスク……自分にとってのリスクを作ったから幸せになれたけど、今回は少年にとって幸せだけど木にとってはもう少年に会えないっていう木にとってのリスクがなくなるから、悲しんだんじゃない

かなと思います。(C:リターンじゃない?) リスク? リスクは危険か。(C:リターンは見返り) 木は初め少年の望みをかなえることで自分の望みもかなえてたけど、幹を少年にあげたら、少年は帰ってこないから自分が幸せになれない。だから少年を幸せにすることによって幹は初めやってたけど、その後この幹のときは少年だけが幸せになって自分が幸せになってないから、好きな人にとって都合がいいようにするだけでは自分が幸せになれないってことなんじゃないかなと思います¹¹。

G: でも、最終的にはハッピーエンドじゃないですか。(B: だからその幹の段階では!)

A: えっとだから、さっきのを聞いてすごい哲学的やなっておもったんですけど、りんごをあげるのも、幹をあげるのも好きな人にとって都合のええことをしていることは同じなんですけど、でも幹をあげるほうは幸せになってないし、好きなひとにとって都合のええ人になる…(C に対して) だからボールとってから言えよ。下僕大好きC君。

C: (何かを言ってAにボールを返す)

中川: えーっと、続けて下さい。どうぞ。

A: いま思ってる意見を全部言ってもらってからにしたほうが心置きなく話せるような気がするんで、(C: ややこしいのお) 話してる間に毎回毎回話してこられて気が散んねん。

G: けんかすんなって

E: この場合の木は人間と同じにしてはいけない特別なかんじがして。木っていうのはその場所から動けないからお金をもらうこともできないし、お金もらってもなにもできないし、遠くに行ったりとか家つくったりとかなんもできないから、その何もできない状態での最上級の幸せが誰かの幸せを手助けするっていうか、そういうかんじだったわけで、それを人間のほうに一般化してしまったら、それは他にも好きなことが何でもできる中でその人のために都合の良い人になるのは幸せかって考えてしまうから、それは特別な場合の話だから、木を人間と同じにしてしまったら、論点がずれるっていうか、それはまた違うような気もするし、少年が物語の中で一回も木に感謝していないっていうか、ありがとうっていう言葉も全くかけてないし、何が欲しい、何が欲しいって最後も休める場所が欲しいっていう風に、それを求めることしかしてないから、初めは遊んだりとかいろいろと自分のことを思ってくれてたけど、最後は自分に利益を与えるものでしかなくなってるようなかんじになってきて、木がなんで幸せじゃないかって言ったら少年の気持ちが自分から遠ざかっていくからそれが幸せじゃないってことじゃないかと思うのと、少年が利害関係にあるかって言ったら、少年は好きなものをもらえるし、木は幸せになってもらうのが一番の自分の幸せだってさっきB君が言ってたけど、人間のほうで考えるのと、木のほうで考えるのは分けて考えないと同じにしたらごっちゃになる、違う場合になると思います。

L: 私はあんまり分けることもないかなと思うんですけど、幸せになってほしいっていうのを自

¹¹ 途中、言葉を間違えたが、テキストと問いの関連を指摘し、テキストによって問いに答えた見事な発言。

分の幸せっていうのは、やっぱり普通に考えたらおかしいじゃないですか。自分も幸せになりたいじゃないですか。だから、たぶん木は少年に片思いをしていて、その思いが一方通行で両思いになるっていうか、相思相愛になるっていうのが木が本当に求めている幸せじゃないかなって思うんですけど、でも木もずっと少年に、少年が自分に好意を向けてくれるには少年が幸せになってくれたら好意も向けてくれると思うから、そういう原動力なんだと思うんですけど、木は幸せを、両思いになるっていう幸せを求め続けている中での行動がその少年の幸せになってほしいって、いろいろあげることであるから、端から見たら全然幸せじゃないだろっておもうから、幹をあげたときも幸せになんてなれませんかよねって言ったんだけど、木はもうある意味で中毒者であるわけだから、片思いの中毒者であるわけだから、あんまりそこは気にしてなくて、その本当の幸せを求めている中でやってる行動が幸せに私を導いてくれるんだと思うって思うから中毒になっているって思うから、その一つ一つの行動である意味偽りの幸せを得てそれでまた次もって思って最終的なところを目指しつつ、だからこの話ってけっこう怖いなって思って、最後もまだ結ばれてないから、少年自体からその気持ちを実際に受け取ってないから、最後も欲求を言われていただけだから、ある意味Mっけのある、木がずっと続いていく（笑いが起こる）一個ずつで幸せを得たって考えるんじゃなくて、本当の幸せを求め続けている中での偽りの幸せの一つ一つの話なんじゃないかなって思うんで、あんまり木と人ってあんまり関係ないと思うし……（聞き取れない）思いました。

D：さっきE君が、（Eに向かって）木を特別扱いする？

E：木はその場から動けないから何もできないから、だから他人に幸せになってもらうことが一番の幸せ。

D：（Eに向かって）一般化はできないって言った？

E：人間と一緒にできない。人間と一緒にしたら人間は他のこともできるのに木と一緒にしたら変わってくる。

C：光合成できることも幸せ。（周りから黙れという声と笑い声）

D：一般化できないっていうことなんですけど。この話たしか、少年と木がしゃべってる時点で木を、人間としゃべってるし、片思いとかそういう気持ちももってるわけだから、別に動けないことに関して以外は人間と変えなくていいんじゃないかなっていうのと、幹をやって、幹を少年にやるときに、もうすでに幸せ、幹をあげるっていう都合のいいことをやっていて、それですでにこの物語の中に幸せになんてなれませんかよねって書いてある時点で、この問いが成り立たなくなってくると思うんですけど。どうですか？

中川：つまり、幸せじゃないっていう話になる？

D：ないとは言いませんけども。この話ではその問いは成り立たない。

中川：成り立たないというのは、問いの答えがもう出ているということですか？

D：いや、まあいちおう答えとして……

中川：じゃあちょっとだけ気になることを言っても良いですか。今、Jさんの話から、一連ずっとおもしろいなと思って聞いてたんですけど、おもしろいっていうのは、この話は実は怖いという話なんです。僕も聞いててそのとおりやなって思ったんですけど、実は相思相愛という話でいったら、お互いの幸せを求めると意味では実は最後も、ハッピーエンドって言ってくれたG君の話をもうちょっと聞きたいなって思ったんですね。最後、ハッピーエンドっぽい。けどなんかちょっと怖いんですね。で、それはなんでかっていう話なんですけど。で、だからそれはDが言ってくれた、幸せじゃないっていう話になってないかっていうこと、いやそうじゃないやんって反論してくれましたね。最後ハッピーエンドになってるから幸せになってるやんっていう話をしてくれたと思うんですけどそれがどういう意味でのハッピーエンドかっていうのがけっこう大事な気がしまして、この場合本当にハッピーエンドなのかっていうのは考えられるんじゃないかな。

G：いや絵本的にハッピーエンドじゃなくて、グロテスク、グロテスクっていうか。ハッピーエンドじゃなく終わったら子どもの教育にも悪いから（中川：そういう話？）だからここをハッピーエンドにしたっていうのもあると思うし、普通の人間だったら木のようなことをしてほんまに木幸せなんって思うじゃないですか。そんな中で、木は幸せになんてなれませんよっていう風な表現を入れることで、なんか読者が最後は本当にハッピーエンドだったのかっていう風に疑うように作者もしかけてるんじゃないかなと思いました。

E：僕はハッピーエンドじゃないとは思んですけど、さっき少年が一度も木に感謝していないというようなことを言っていて、それとJさんが言ってくれた偽りの幸せっていうのが関係してるかなあという風に思うんですけど、それは勝手に木が思っている幸せであって、実際少年は木の幸せを祈ってるわけやけど、少年が幸せになったかどうかっていうのは書いてなくて絵本を見てもあまり少年の姿が幸せそうじゃなく、だんだんやつれていくかんじに見えて、それか幸せになってるんだらうなって考えていても実際は幸せじゃなかったりするから勝手に幸せと思ってるうちに、本当に少年が幸せにならないうちになんか自分が全部なくなっちゃったんじゃないかなと思って、最後切り株になってるから怖いといえば怖いし、ハッピーエンドじゃない気がします。

C：この文章の終わりがなんか最後、少年の言葉の後に木の言葉で終わってるんですけど、少年の返事を聞かずに木の言葉っていうのが病んでるんですよ。なんか、おいでみたいなかんじで、けっこう文章長くて、木の言葉で終わってるからそこが怖いんじゃないかなと思います。

D：えっと、僕の意見でいくと幸せはないと思うんですけど、みんなが言っているように木は幸せでしたって書いてあるだけで、さっきの僕の意見に重複して言うなら、この物語が木の自己満足。主人公は木であって、少年はサブ。脇役みたいなもんで、簡単に言うとこの物語は木の自己満足の物語。だから少年は別に対して関係ないみたいなそんな物語だと思うんですけど。

E：文章の中に出てくるのが木は幸せでしたっていうことが書いてあってそれは作者の一種のひっかけなんじゃないかなという風に感じるんですけど、シェル・シルヴァスタインさんがどうい

う気持ちをこの本に込めたかっていったら、木は幸せでしたって書いてあったら普通は幸せだと思うけど、それは実はそれは本当はどうなんかなっていうことを、読者に問うているようなかんじがして、木は幸せだって言ってるんだから木は幸せだって思ったとしても実際考えてみたら、さっきの怖い話っていうのも幸せだと勝手に思っているうちになくなっちゃって最後は幸せじゃないっていう風なことになったから。幸せって書いてあるから幸せって簡単に思ってしまわないほうがそこが作者が込めた気持ちだと思ったんで、そういう風に考えたら幸せじゃなかったっていう、さっきD君が自己満足って言ってくれたように、そういうかんじの気持ちかなって思います。

中川：じゃあ、ラストいきましょうか。ちょうど良かったです。

M：さっきE君が作者が木は幸せ……作者が思っていることと木が思っていることは違うと言ったと思うんですけど、僕もそうだと思って、一番最初にリンゴをあげたところは実は木は幸せじゃなかったと思って、この物語の最後は木と少年がいっしょにいるってことが幸せだと思って、枝をあげたときが作者さんも木は幸せでしたと書いてあって、木も幸せだと思ってそれは自分の枝が少年のそばに家とかたちであるから、それは幸せで幹をあげたときは少年が遠くに行くための船とかたちで少年のそばにいられるから幸せってことで、それを作者さんは幸せになれませんよなって書いているけど実際は幸せ。切り株になったときに少年と木がいっしょにいられて、そのことが結局は幸せに結びついた。最後に切り株のところに来た少年がやせて体がおじいちゃん、もうすぐ亡くなりそうなかんじがあったんで、そこから時が進んで骨だけになったっていうのを考えたら、木の栄養になって（笑いが起こる）それで最終的には本当の意味で木といっしょになったというか、そういうかんじになったんじゃないかなと思います。

中川：おー、なるほど。一番最後は恐ろしい話になりましたね（笑いが起こる）ちょっと時間がないけど、最後は手短かにいきますか？

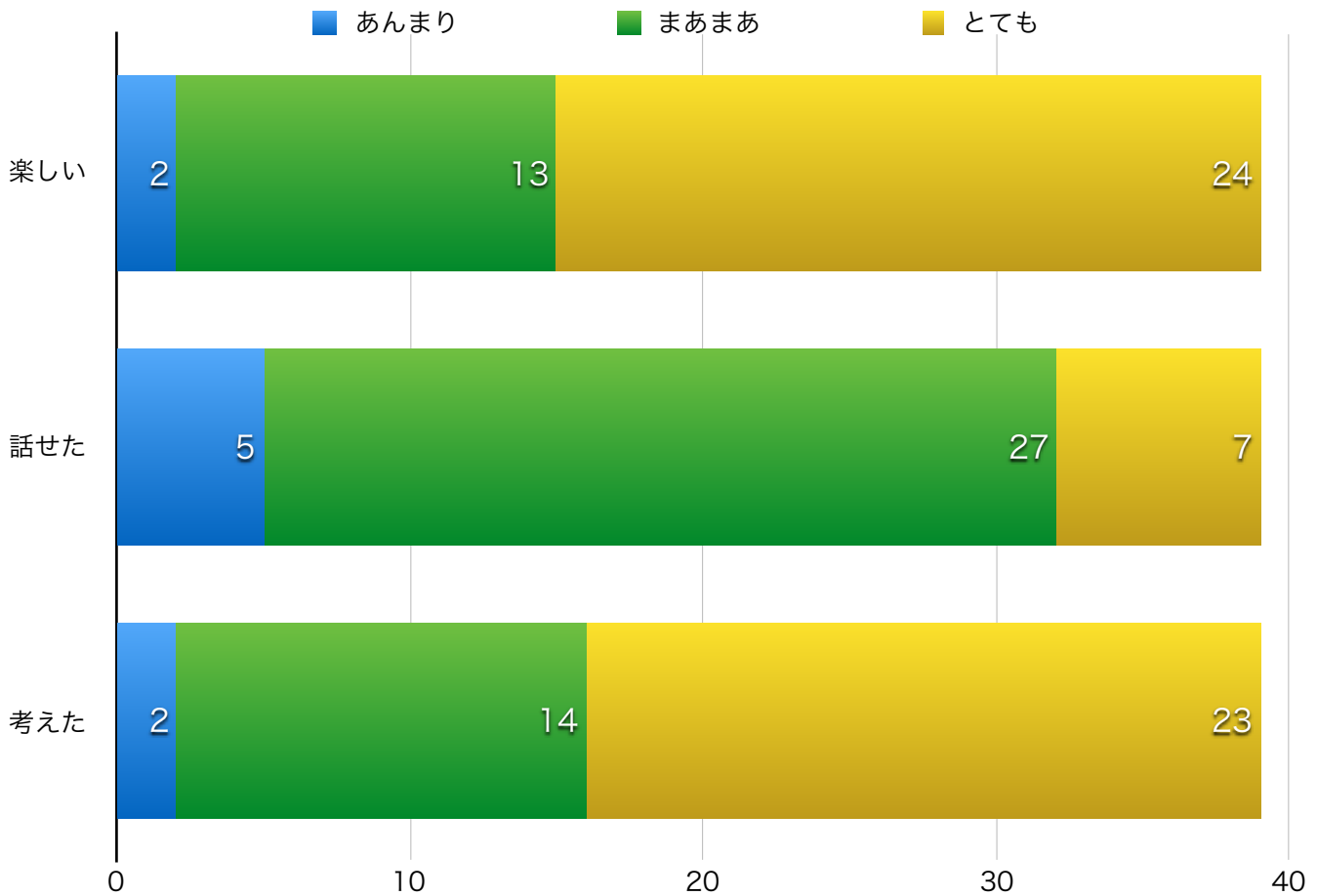
L：私はあげるのも、何のためのその行動をしてるかっていうのが、さっき私が言った最終的に両思いになりたいっていう気持ちだと思うんで、ひとつひとつの行動自体は偽りなんじゃないかなと。本当の幸せとか、それに導くためのものだから、それひとつひとつを幸せっていうとちょっと幸せが多くなりすぎるんじゃないかなって思って、それでだから私がなんで怖いかなって思ったかっていうと、今さっきみたいに死んだとしても、骨になったとしてもでもたぶんまだ木は両思いになってない、たぶん一緒にいること自体ではそれさえもまだ幸せじゃない。そのことも何のためにそうなるかっていうと、お互いを愛し合いたい、そういう風に持っていきたいから、たとえ骨になったとしても、死んだとしても木は思い続けるっていうのが超怖いなって思います。

中川：なるほど。ちょっとした怪談みたいになってますね。じゃあ今日はこんなもんにしときますか。

以下は生徒の評価とコメントだが、話していない人たちが話している人たちの意見をよく聞いていることが分かる。さらに、単なる一般的な問いではなく、テキストの解釈が話したことで変化している。そこに注目すると、この対話はテキストの解釈を助けたと言える。

生徒による対話の自己評価

項目：議論は楽しかったですか？ 安心して話せましたか？ 深く考えることはできましたか？



P4C ジャーナル一覧

1、発言した人たち（14人）

自己評価は左から楽しい、話せた、考えた。その下が順に評価理由、コメント。

A	まあまあ	まあまあ	とても
	意味不明な発言が多かったから		
	人による、としか言えない。時と場合、手段にもよる。		
B	まあまあ	まあまあ	まあまあ
	いたって普通		
	もう何もかもが偽物に見えてきた。結局はすべてがウソで固まっているとでも言いたいのだろうか。そんな絵本でいいのか……。		
C	とても	とても	とても
	面白い議論だったから。		
	筆者が木の幸せを直接的に著しているからなんか引っかかる。たぶん少年の幸せがポイントだと思うけど早とちりかもしれない。		

	とても	まあまあ	とても
D	久しぶりだったので少し緊張した。		
	最後のK君の意見に反論で、一緒にいることが幸せなら、幹を切り取られて船にされたとしても、少年は使っているのだから「自分の体の一部分が使われている」という事で、幸せになれるのではないか。		
	とても	とても	とても
E	違った見方ができた→「大人の」見方		
	自分は他人のために生きているのではない↔その人が喜んでくれるだけで幸せ（二極化する）「木は幸せでした。」と書いてあるけれど本当は幸せなのか？偽りの幸せではないか 何のためにその行動をしているのか？木は裏切られているのではないか 木と少年がすれ違う		
	とても	まあまあ	とても
F	自発発表ができなかったから。		
	人によって思ったり感じたりしたことが違って色々な解しゃくができる絵本を皆で読むのはなかなかおもしろかったです。発表できなかったですが、私は最後のみ「それで木は幸せでした」と書かれてあるけれど、その文より前は「それで」なんてかいてなかったの、木がどんどん少年にいぞんし、最後には近くにいれるだけで（両思いに本当はなりたかったのに）それだけで幸せだと感じてしまうようになったのを表現しているのではないかと思います。		
	まあまあ	まあまあ	あんまり
G	論点がコロコロ変わっているように見えて変わってなかった。		
	自分の考えは特になし		
	とても	とても	とても
H	視点によって、物語の見えかたがすごく変わることが色々な意見をきいてわかっておもしろかった。		
	木にあてはめて考えると、木は一応幸せだったと思います。なぜなら木の本当に求めていることは少年が木のことを想ってくれる、木と少年が両想いになることで、でもそれは叶わないから、木は少年に会えることで一応幸せを感じていたと思います。また、文中に「『それで』木は幸せでした」というものがあって「それで」というのは例えば日常生活で使う意味では「私はそれでいいよ」とかまだ満足ではないけど一応良いみたいなニュアンスだと思うので、木は満足ではないけど一応幸せを得ていたと思います。		
	とても	とても	とても
I	そうだったから。		
	単純に、自分が都合の良い人になろうと、自分が幸せか幸せじゃないかは分からないから、何とも言えない。自分が幸せだと感じないことはないと思う。なぜなら、好きな人にはだいたい自分より幸せになってほしいもんだから。		
	まあまあ	まあまあ	とても
J	いろいろな方向から考えれた		
	僕は、この物語の中では木は全ては幸せではないと思う。なぜなら最初にりんごをあげた時には、少年に喜んでほしいという気持ちであげたと思うが、それが木の枝、木のみきとなっていくうちに、少年はどんどん幸せになっていき、木はどんどん幸せでなくなって、少年が遠くに行ったときには完全に幸せではなくなっていると思う。		

	あんまり	まあまあ	まあまあ
K	色んな意見があって自分の意見が変わるような意見もあったから。		
	木と少年は初め遊んで両方が幸せだったから少年は木とただの遊び相手だと思っていて少年は木と遊ぶ意外にもすることがあり木は動くことができないので近くにいてほしいと思っているので想いがかたよっている。		
	とても	とても	とても
L	テキストが絵本であり、かなり深く書かれているから短い文章でわかりやすい（実は難しいのだが）ため考えが容易につくれた。		
	好きな人に自分のことを好きになってほしいという考えは絶対誰しもが持つものであるため、相手が幸せになる（＝相手にとって都合のいい人になる）ことで、自分に好意を抱いてくれるのではないかと考えるのは普通であると思う。そのためどこまで尽くすことは、その時には幸せでないと思うがその先にある幸せを求めて行動を起こしているところであるためはたから見ると「幸せなんかじゃない」と思うと思うが、ある意味中毒性のある“片想い”をしている。テキストならば、木は「幸せがくる」ということを待ちこがれているので、自分がした行動で「偽りの幸せ」を得ているのではないかと思う。つまり、はたから見ても、木の本心でも幸せでない行動（行きすぎた都合の良い人）をしていても“片想い中毒”にかかっているため幸福を得たと感じているのではないかなと思う。		
	まあまあ	まあまあ	とても
M	最後の最後にちょっと深くまで考えてしまってホラーのような形になってしまったけれど楽しかったから。		
	自分はやっぱり木は少年と1つになりたいという思いが強いです。少年が亡くなった後でも、木はまだ大きくなると思うし、そう考えたら骨になってしまった少年をもとりこんでいってしまうのではないだろうか？少年はなぜ毎回木とあうごとに不幸になっているのだろうか。		

2、発言しなかった人たち（25人）

	とても	あんまり	とても
	とても深い議論ができたと思います。いろんな考えがわかったし自分が思いつかないようなことを考えている人もいておもしろかったです。		
	議論をきいていてこの話はけっこう怖くて深いことに気づかされました。絵本ではあるけれど内容は難しく作者から何か問いかけられている感じがしました。本当の幸せを見つけるために木が少年に物を与えていくという考えがいちばん納得できました。そこに行きつくまでの1つ1つが偽りだったと考えると怖いなあと思います。		
	とても	まあまあ	とても
	自分が考えていなかった意見やあたらしい疑問がたくさんでてきたのでたくさんの方のことを考えることができた。		
	木の幸せというのは、少年が幸せになることだけではなく、少年と一緒にいる時間、少年が自分を求めてくれていることだと思います。だから「幸せになれませんか」と書いていた時の木の状況は、きっと少年が幹をもって行って船をつくりどこか遠くへいくことによってもう木の所へはこないことが考えられるから、もう木と少年は一緒にいれないし、自分を求められることもないということで木は幸せになれないと考えたと思います。この物語は、まだまだ続きがあって、少年が木に対して考えることがない限り、木は本当に幸せになることができないと思います。少年の気持ちや考えが知りたいと思いました。		

とても	あんまり	とても
とても深い議論ができたと思います。いろんな考えがわかったし自分が思いつかないようなことを考えている人もいておもしろかったです。		
議論をきいていてこの話はけっこう怖くて深いことに気づかされました。絵本ではあるけれど内容は難しく作者から何か問いかけている感じがしました。本当の幸せを見つけるために木が少年に物を与えていくという考えがいちばん納得できました。そこに行きつくまでの1つ1つが偽りだったと考えると怖いなあと思います。		
とても	まあまあ	とても
自分が考えていなかった意見やあたらしい疑問がたくさんでてきたのでたくさんのことを考えることができた。		
まあまあ	あんまり	まあまあ
人がしゃべっているときにくちだしする人がいたので集中できなかった		
いろいろな答があってよかったと思う。でも木は少年にあまいことはしていないと思う（後は判読できない）		
まあまあ	とても	まあまあ
話についていけなかったところがある。同じ視点のものが多かった。		
この物語がこわいときいてとても新鮮でした。少年は歳をとるにつれて家族の愛を求めたり恋人の愛を求めたりしますがさいごはやっぱり木で、人はうらぎるけど木は裏切らないように思いました。家をたてたいのも家族のため、ふねがほしいのは家族の愛に失敗した(?)からで、自分の求める幸せのために木を利用し、木は少年を信じつづけていて深いなと思いました。		
とても	まあまあ	とても
話せなかったけど深く考えられました。		
私は木は片思いだと思います。Lさんが言っていたように少年は木のことを愛していなくて、木はずっと少年が好きで、少年は木を利用しているのに木はずっと少年に自分を与え続けていました。少年は「ありがとう」を言わなくて多分死ぬまですずと思わないと思うけど木はそれでも幸せなんだろうと思います		
まあまあ	まあまあ	まあまあ
少し話がややこしく、あまり深く考えることができませんでした。		
私はこの話のつづきはどうか少し考えてみました。切り株に座って物語はおわったけれど、切り株に座っただけでは、寝るところも食べるものもないのですぐに死んでしまいます。だから最後までどちらも役目を果たせず、中途はんばにおわってしまいます。少年は木にいろいろしてもらったけれど少年は幸せにはなれていないと思います。		
とても	まあまあ	とても
木は人間と扱っていいのか、そこが一番難しく、深く考えることができました。また、意見が人によって全然ちがう考えだったので、聞いているだけでおもしろかったです。		
最初の自分の考えとして「自分の中で満足しているならそれで幸せ」だと思っていましたが議論を聞いていくなかで、自分の幸せのために尽くしているのだったり、本当は幸せでなかったのではないかと考えが変わってきました。一見シンプルに見えてとても深い内容だったと感じました。		

まあまあ	あんまり	とても
<p>相当始めの方から話題がずれたので、話についていけなかった。頭の片隅には議題があり、今話されているものを理解しているようなしていないような状態だった。今日は。</p> <p>やっぱり木は自分のものをあげて少年にとっての都合のいい人になっている。だから、やっぱり幸せじゃないんだろうか。→あげることが幸せなのではなくて、一緒にいることで幸せなのだ。今日の議論は自分がしっかり内容をつかめていけなくて残念だった。</p>		
とても	まあまあ	とても
<p>色々な意見がでて、自分が考えもしなかった考えも出てきたからです。</p> <p>私は、幸せではなかったと思いました。その理由は木は少年の幸せをずっと願っていましたが、そのたびに自分を犠牲にすることになり、少年からも、ただの願いをかなえるための材料にしかなくなってしまったからです。</p>		
まあまあ	まあまあ	まあまあ
<p>おもしろかったから。</p> <p>自分の考えはむりだと思って理由は都合よくなってもむりだからです。</p>		
まあまあ	まあまあ	まあまあ
<p>難しい議題だったから。</p> <p>最後の部分はハッピーエンドだと思います。最後の頼みは切りかぶは何も失わずに、相手の少年も木によりそっているだけだから、最後の頼みは木に頼み事をしたいんじゃなく相手に会いたくて、よりそうために相手の事を思っただけの頼みだと思ったから、ハッピーエンドだと思う。</p>		
とても	まあまあ	まあまあ
<p>いろいろな見解があっっておもしろかった。</p> <p>私は、Lさんが言っていたことが、面白かったです。木が、幸せだと思っていたことは、すべて本当はそんなに幸せじゃなくて、だから木は一生、幸せになれないんじゃないかと思っています。（木と少年は両思いになれないし、多分少年はもうすぐ死ぬから。）だから、木の人生は、全て少年にとられたようなものだと思います。</p>		
とても	まあまあ	とても
<p>「怪談」や「怖い話」といった自分に思いつかない意見が出て、とても面白かったから。</p> <p>私もやっぱり木が怖いなど議論を終えて感じました。少年が死ぬとどうなるのかはすこし怖いですが、少年と話していたときの木はとても幸せだったなと思いました。設定がよりこの話を面白くしているのだなと改めて感じました。</p>		
とても	まあまあ	とても
<p>視野が広く、難しかったけど面白かったです。</p> <p>おおきな木の本の中では、木も少年もお互い満足していて幸せだと思います。この議論をふまえて木は最初「少年に好きだと思われていて、一緒に遊べる」という状態が幸せだったけど、少年が成長していくにつれ「少年の役に立って、少年に満足してもらえる」ことが幸せに変わっているんだと思います。人によってそれぞれ幸せは違うけど、木は結局何があっても少年を思うことをやめないから幸せなんだと思います。第3者視点から見ると、ただ都合のいいことをしているように見えるだけであって…。</p>		

とても	とても	とても
人間と木を比べることとか、違うものでも考え方は同じだということが分かっておもしろかったからです。		
ぼくは幸せにはなれないと思います。理由としては初めの方は木は少年の生活が楽になるのは幸せだけど少年は木に感謝しているのではなくいいように使ってラッキーやなとしか思っていない訳だから枝などまた新しいことを要求しているのだからそれはにせものだと思うので本当の幸せではないと思います。		
とても	まあまあ	とても
おもしろかったです。自分の意見とはまた別の意見が出てきたのでおもしろかったです。		
私は都合の良い人になることができるのは、幸せでも不幸せでもあると思っていました。でも、色々な人の意見をきいて、まず納得したのは、Hさんの意見です。私は幹を少年にとられたから、木は幸せになれなかったと思っていました。でも、Hさんは少年が木のそばにおらず、船で遠くにいったからだと言いました。また、Lさんの為りの愛の物語で実は怖い話というのもそうだなと思いました。木がずっと愛し続けるということも怖いです。初めてこの物語を読んだときはすごい深い話だなと思っていましたが、これほど深くなりすぎているのもすごいと思いました。		
とても	まあまあ	とても
物語の深読みができて面白かった。		
今回このテーマについて話し合っって物語を深く考えることができました。木は少年に幸せを求めて結局は木に戻ってくるという真の意味について理解できました。好きな人にとって都合の良い人になることが幸せという点では人によって幸せのポイントが違うだろうから幸せと感じるのは人それぞれだと思います。		
とても	あんまり	とても
色々な意見が聞けたし、深く考えることができたのでよかったです。		
少年は最後まで木の気持ちを考えることはなかったと思います。Lさんと同じで、木は少年に好かれたいがために自分の体をさしだしたと思うので、結局本当の望みは叶えられないままだったのではないのでしょうか。木は、少年が自分のそばにいることを自分を好きになってくれることを望んでいたと思うけど、2つめが叶うことはないと感じます。		
まあまあ	まあまあ	まあまあ
とても難しくよく分からなかったから。		
人によると思う。なぜなら好きな人につくすことが幸せだと感じる人もいるし、感じない人もいると思うから。でもほとんどの人は感じないと思う。理由は、本当の自分を隠し続けていたとしてもそんなことを一生続けるということはできないし、いつかはボロがでると思うから。		
あんまり	あんまり	あんまり
問いの意味がよく分からずあまり考えることができなかった。		
今日の問いは難しかった。発表はできなかったが自分の考えをもてていた。		
とても	まあまあ	まあまあ
楽しき議論を聞いたから		
誰が言っていたかは忘れたけれど、木の幸せは少年の幸せであり、少年の幸せが木のことが幸せでなくても木は少年のためにつくすということは幸せなのかについて深く考えた。		

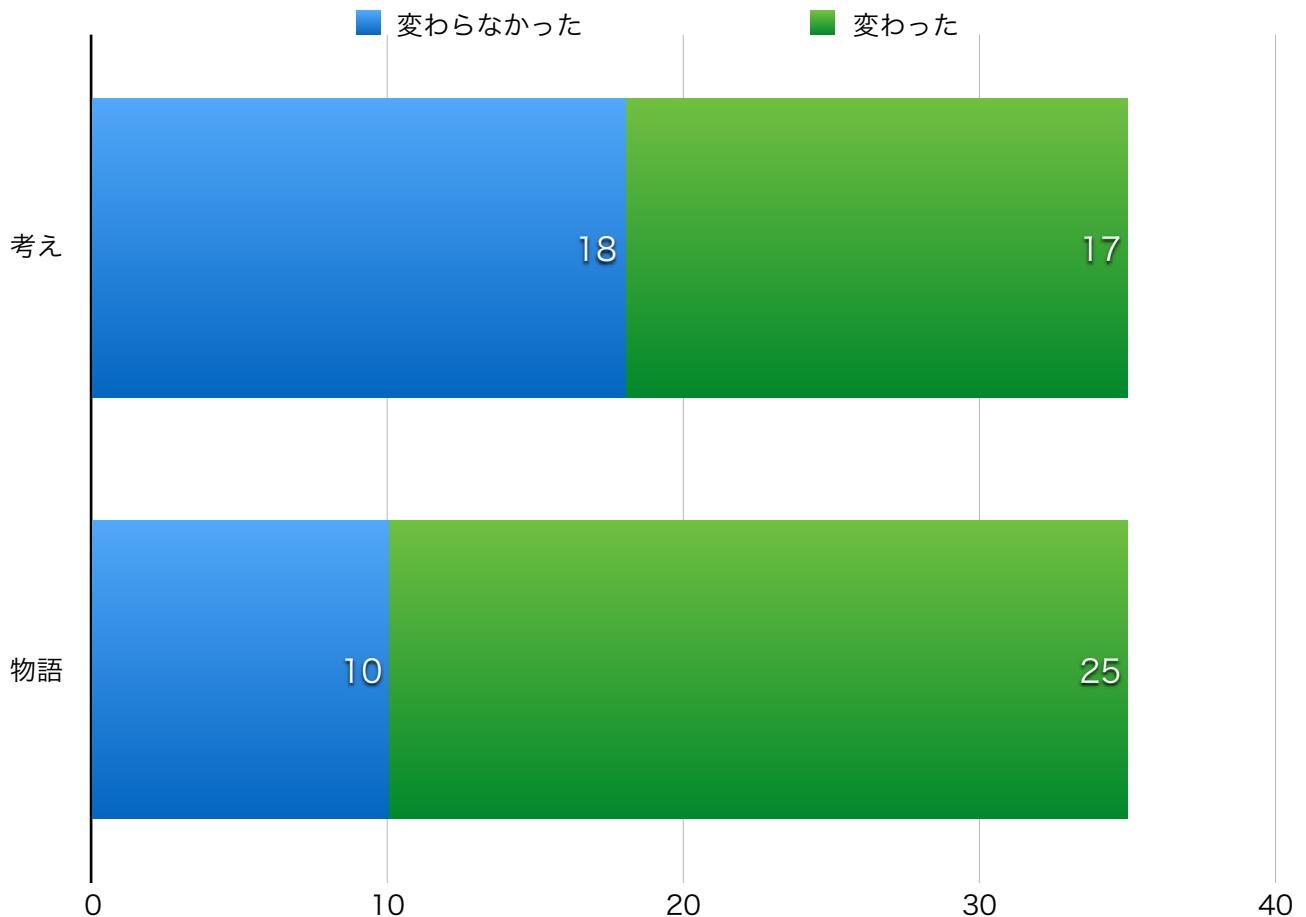
まあまあ	まあまあ	まあまあ
人それぞれ幸せとおもうことはちがうからむずかしかった。少年が1回も木に感謝してないのが気になりました。都合のいい人になってもよるこんでもらえるかは別だという意見に納得しました。		
とても	まあまあ	とても
問いについて深く考えることができたからです。		
私の問いに対する答えは“NO”です。理由は議論の中でA君が「人によって幸せだと思う定義というのが違う」と言っていて、私もその意見に共感しました。だから、一方的に“NO”とは言えないけれど私が考えたのは好きな人がいて、その人の事をすごく想っていたとしても都合のいいことをしてその人に好かれようとしても好かれなければ意味がなくて幸せになれないと思うから私は“NO”だと思いました。		
とても	まあまあ	まあまあ
この物語とこの問いの照らし合わせて考えるのがおもしろかったと思います。		
私は幸せではないと思って、都合のいい人というのは素の自分じゃないから嬉しいと感じないと思う。それは、議論の中でもあったようにいつわりの幸せであって、木が少年に幹をあげた時、“木は幸せになんてなれませんよね”というところがあったが、それは少年に会えなくなるからだと思う。		
とても	まあまあ	まあまあ
議論を聞いていて面白かった。		
木はとても哀れな存在だから、少年という唯一の幸福のためならある程度の犠牲は仕方ないという考えだったと思います。しかし自分の幹までとられてしまうと木は幸せを感じることもできなくなるので幸せではなかったのだと思います。		
とても	まあまあ	まあまあ
色んな意見がでて面白かった		
私は好きな人にとって都合の良い人になっても相思相愛でなければ幸せではないと思った。少年は木が始めは大好きだったけど後の方になって大人になるとあまりその気持ちがないように感じられた。		

書くことへの接続

「話す・聞くこと」が「書くこと」へとどれくらい影響するかを見るために、対話前に思うことを書き、対話後に構成を考えて書くように指導した上で三百字以内の小論文を課した。問いは対話で用いたものでもそうでないものでもいいとした。

書いた後にアンケートを行った（39名中4名が未提出・無回答）。

項目は「P4Cで考えは変わりましたか」「P4Cで物語の解釈は変わりましたか」の二つ



最も多かった解答は「自分の考えは変わらなかったが、物語の解釈が変わった」というものだった。以下は、自由記述の一覧。（時間の余裕があった人だけが書いている）

なかなかおもしろい問いだと思った。この本のこわい一面を知ることができるようなものだったのでまたこのようなきかいがあればいいと思う

P4Cを通して、YESかNOかという2択の中では考えが変わりませんでした。考える視点が変わりました。最初私は問いのことばかり見て考えていました。でも他の人の議論をきいて物語の内容も視野に入れてこの問いを考えようと思いました。実際に改めて考えてみると、物語の内容の複雑さに気づき、この問いはとても難しいなと感じました。

この問いに関しては最初悲しいだけだと思っていましたが、P4Cでその可能性もあるけど幸せだと感じる理由もたくさんあることがわかったのでP4Cで考え方が増えたのでよかったです。

自分とよくにた考えを聞くと共感できるところもあってよかったです。
はじめは幸せではないと思っていました。なぜなら本当の自分を好きになってもらってこそ自分が幸せだと思ったからです。しかし、好きになってもらってなくても相手の喜ぶ姿は相手が幸せであれば自分も幸せだと思ったので意見がかわりました。
P4Cをするまでは全員NOだと思っていました。でもP4Cをすると意外とYESの人がいるのだなと思いました。色々な意見を知れてよかったです。
最初は相手が幸せとおもえなかったら幸せだと言えないと思っていたけれどその瞬間自分が満足できたら自己満足かもしれないけど幸せだといえると思いました。
最初はただの自己犠牲なだけだと思いました。ですがP4Cで違う考えの人の意見をきいて自己満足であっても木にとっては幸せであるという考えをもつようになりました。そうすることで物語の解釈も変わってきたのでP4Cで人の意見を聞くことでいろいろ見え方がかわるのは、おもしろいと思います。
「大きな木」を初め読んだときは「ふ～ん」で終わったけど、議論してみて、より深く物語のことを考えられた。だから面白かった。(余談ですが) だからこそもっとP4Cの授業を増やしてほしい。あと、せめて400～600字ぐらいは欲しい。自分の書きたいことの半分ぐらいしか書けなかった。
私はP4Cをする前、幸せではないと考えていました。しかし、P4Cをして、幸せだという人の意見をきいて考えが変わりました。
自分で決めた問いだったが難しかった。友達関係の前提で書こうと思ったが、なんだかドロドロした恋愛の話になってしまった。短くまとめるのは難しかったです。
普通に読めば「少年の木の友情」だけれど、ふと思えば偽りの友情の可能性が出てきて恐ろしい一面もあるおもしろい話で、興味深い議論でした。
プレーンバニラをすることで、物語を読むだけでは分からない解釈の仕方が分かりました。なので、良かったと思います。
私は「いいえ」から「はい」へと変わったのですが、木という登場人物の気持ちになることはやはり大切なことだと実感しました。
はじめ、自分の持っていた意見で考えはまとまっていると思っていましたが、P4Cで物語のとらえ方が増えました。小論文はメモを書いてからすることで、だいぶ書きやすくなったしあっという間でした。
私は、この問いを考えてみて、幹を切られたから幸せになれなかったと思っていましたが、少年が船をつくって遠くにいってしまったから…と考えれば、確かにと思いました。都合の良い人になるもならないも、この物語は奥が深いと感じました。
今回「大きな木」をもとに「幸せ」について議論した。最初は少年の気持ちばかりを考えていたが議論をしていくうちに少年と木の二つの気持ちを考えることができた。
私は今回P4Cでこのテーマで議論してみてとても面白かったです。一見、このテーマは恋愛っぽいですが、大きな木とセットで考えてみると捉え方が変わってきて面白かったです。
「好きな人にとって都合のいい人になれば幸せだといえるのか」という問いは「誰が」幸せだといえるのか(一般的な普通の人間なのか、全ての生き物か、「大きな木」の木か)があいまいで難しかったので、大きな木のみで考えました。
P4Cの前までは木は本当に少年のことが好きなんだと思っていたが、利用されているのかと思い、切なくなった。
とらえ方の違いによって人の考え方はさらに違ってくるということを改めて感じた。

今回は問いがあいまいだったこともあり、より深く考えることができてとても面白かった。

P4Cでみんなの意見を聞いていたけれど、あまりみんなの意見に納得できるものがなかったので自分の思っていたことだけで書いたけれど、まとめるのがむずかしかった。

木から見た気持ちと他人から見た気持ちで大きく違ったので考える立場によってYESかNOが変わると思いました。

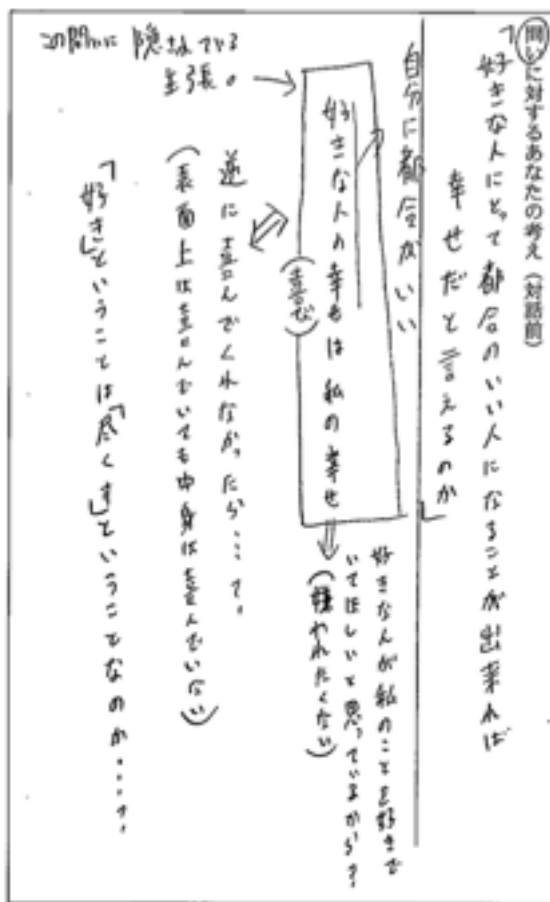
P4Cをする前はNOだと思っていたけれどP4Cをして人に喩えて考えている人がいて、人に喩えると幸せだと言えることもあるのではないかと思います。

P4Cを通して、問いに対しての答えはあまり変わらなかった。メモをとることで考えがまとまって文が構成しやすかったし書きやすかった。

P4Cで自分が考えもしなかった「実はこれは怖い話」というのをきいて、意見は変わらなかったけれど、みかたによって物語の解釈が全然かわってくるということがわかった。

絵本である「大きな木」を最初読んだときに思ったことは、この本は寓意がすぐ感じとれる本だな、でした。少年のダメ人間なところや、木が最後、切り株になっても尽くすこと、まして何より、最後ハッピーエンドで終わるところから、感じ取ったのだと思います。しかし、P4Cをして、クラスの人意見を聞くと、この本は単純でないと思い、考えが変わりました。

「対話前の考え」と「対話後の小論文」の例



問いに対するあなたの考えを、構文を作って三百字以内で述べなさい (対話後)

い 大 さ 子 せ 思 る 振 だ 何 で に の が 私
 は 小 け ん な 相 っ 事 り な い な こ の 幸 せ
 せ 木 て い 。 な っ 白 色 か の と 思 っ っ っ
 は 小 て い 。 な っ 白 色 か の と 思 っ っ っ
 る 小 の 先 が こ の 愛 っ っ っ っ っ っ
 の 先 う た に お と の し も 相 っ っ っ っ っ
 に も が 有 う が 場 っ っ っ っ っ っ っ っ
 の っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ
 の せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ
 だ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ
 の っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ
 中 心 っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ
 な っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ
 主 張 っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ
 っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ

対話の中で「相思相愛」という論点に気づいたし。

問いに対するあなたの考え (対話前)

IAの問い

僕は幸せではないと思えます。なぜなら、自分はその人々のため生きていくわけにはいきませんが、もし自分が何かをしてその人が喜んでくれているのはたまたまの使いに過ぎないし、本当に好きなものならば互いの都合の悪い所をお手ない合うはずだからです。客観的に見ると残念な人だし、そのさも好きかどうかももう一度心に聞く必要があると思つてからです。

問いに対するあなたの考え (対話前)	P4Cで考えた考えは変わりましたか	変わった 変わった	変わらなかった 変わらなかった
私は都合の良い人になりたがる。他人の手が自分に届かない。都合の良い人は、自分の都合の良いように振舞う。他人の都合の良いように振舞う。			

自分の意見は変わらなかったが、Lの意見に影響されているE。

問いに対するあなたの考え (対話前)

私は幸せではないと思えます。なぜなら、木にも喜びや悲しみがないし、木はただ生きています。木は人間と同じで、喜びや悲しみを感じます。木は人間と同じで、生きています。木は人間と同じで、生きています。木は人間と同じで、生きています。

問いに対するあなたの考え (対話前)	P4Cで考えた考えは変わりましたか	変わった 変わった	変わらなかった 変わらなかった
私は木は人間と同じで、喜びや悲しみを感じます。木は人間と同じで、生きています。木は人間と同じで、生きています。木は人間と同じで、生きています。			

発言はしていないが意見が変わった。